



Title	追想への装身具 : 銀閣寺参道空間の図式的形象試行
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2026, 87, p. 136-137
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/103748
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

追想への装身具

— 銀閣寺参道空間の図式的形象試行

大森 正夫 OOMORIS DESIGN 京都芸術大学

はじめに

人はふとした事をきっかけに在りし日の風景が感情とともに蘇ってくることがある。体験した空間が追想されるきっかけは、感覚的な音や匂いなどの刺激や物質的な着衣や写真など、人それぞれ異なるものであり予め指定することはできない。

しかし、記憶に残る体験場には視覚的な形象を想起させる特徴的な図式¹が潜んでいる可能性が高い。換言すれば、感覚与件であったその場特有の図式は、その空間をイメージ²するきっかけとなるアナログ³として作用し、生きられた体験へと誘う可能態となり得るのである。

筆者は京都の古空間を調査分析した経験から、歴史を超えて人を魅了し続けている空間には、唯一無二の造形的特徴を有する場が多く、その場で体験した整理し切れなかった感覚や情景などの受動的情報は潜在的な記憶として留まりやすい特性を有している知見を得ている。つまり、五感に強く訴える刺激的な空間は、追想を引き起こしやすい図式的空間とも言えるのである。

そこで、観光客の多い京都においても認知度の高い銀閣寺（正式名：東山慈照寺）の参道（図1）を対象に、身につけることによって追想の一助となる装身具を制作した。本稿では、制作した作品

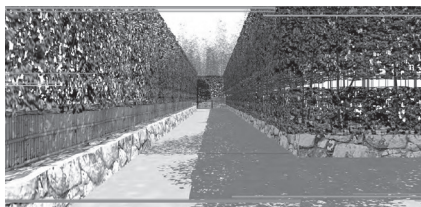


図1 銀閣寺境内参道 CG（絵巻 第八景）

の意図と技法、および発表展示での主旨説明用に作成した絵巻の制作意図などについて報告する。

装身具の制作意図

追想を誘うモノづくりとしては、体験した空間を類似的に制作する方法も有り得るが、空間体験で得た心象は物質的類似性とは直結しない上に擬似空間では差異的部位に関心が向くことから、視覚的な情報量を凝縮したミニマルな造形の方が個性の強い心象の想起には適していると考えた。

また、客観的な鑑賞装置となるオブジェよりも、身に着け目を閉じて触りながらも想像できるモノの方が主観的な感情移入もし易くなる推察から、追想のためのアナログ³としては装身具が最適であると判断し、銀閣寺参道空間を事例にした装身具

銀閣寺参道空間の図式化

銀閣寺の境内参道は90度に2度折り曲がるダイナミックな矩折りの動線配置とヒューマンスケールを超えて覆い被さる東西の直線的な生垣によって構成されている（図2）。銀閣寺への導入部であるゆえに主題化して鑑賞する人は少ないであろうが、ここでの造形は類い稀な空間構成の技巧によって潜在的な記憶に留まりやすい図式性を読み取ることができる。

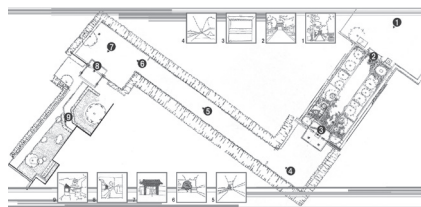


図2 参道の平面図とシーケンス図（絵巻 第五景）

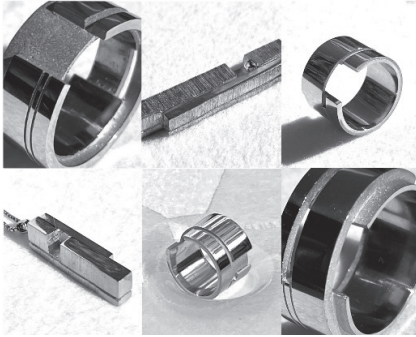


図3 Space Jewelry『KYO = 銀閣』(抜粋)

参道空間の図式化においては、空間の立体的な配置構成と素材の要素分析、さらには構成要素による再構築からの簡素化と誇張が必要となる。

そこで、参道を構成する素材要素によるCG化によって空間を特徴づける要素(動線の矩折、直線的な多刈り込み、生垣のスリット、1本の椿など)を抽出し図式化した。さらに、図式の直接的な形象化では直喩的なイメージ連想となり、実像的な空間を思い出すのみになる危険性から、心象風景を引き出すために具体的な空間への直接的な追想に繋がらないような図式的形象へとデフォルメを幾重にも行い、個々人の心象風景が追想し易くなる三次元的な形象を数点作成した。

装身具『KYO = 銀閣』の制作方法

図式的形象をストレートとリングの形状に変換し、ペンダントやタイピンなど十数点(図3)の装身具を制作し展示した(図4)。

制作に際しては、蝋(ワックス)を基本に発泡スチロールやモデルボードなどで原型を作り、それぞれの鋳型に金属を流し込むロストワックス製法を活用した。鋳造と基礎的な研磨は加工業者に委ねたが、仕上げに際してのエッジの鋭い彫りや加工し難いディテール調整は筆者の手作業である。

素材は、銀閣(英称: Silver Pavilion)をイメージしやすい銀(sv.925)とプラチナ(pt.900)を使用し、鏡面、梨地、ヘアラインなどの表面テクスチャの差異は参道を構成する素材特性を現した。



図4 Space Jewelry『KYO = 銀閣』の展示

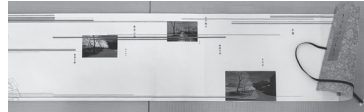


図5 『心象絵巻 きょうはぎんかく』の展示(巻頭部分)

説明用絵巻の制作概要

参道空間の説明に際しては、道のりでのシーケンスが心象形成に大きく関与していることから、目的地を意識し始める場所からのヴィスタを時系列に伝達できる絵巻形式を用いた。

展示した『心象絵巻 きょうはぎんかく』(20cm × 620cm)(図5)では、『KYO = 銀閣』を身に付けたくなる人の追想風景を描くために、大文字山が見える銀閣寺道から桜並木の疏水、哲学の道、門前参道、そして銀閣寺総門への道すがらの風景と境内参道に入ってから風景転換などをシミュレーションCGや配置図面、そして空間の特徴を記した詩文などを14景の並びの中で構成した。

本試行によって実証できた風景の図式的形象化と絵巻表現の有効性については、今後の制作論的研究の主要課題として取り組む予定である。

註

- 1 ここでの図式(schematismus)は、イマヌエル・カントが『純粹理性批判』において感性と悟性の結びつきを説明するために導入した概念であり、図式を媒介して認識を可能にする仕組みのことである。
- 2 ここでのイメージ(image)は、J = P・サルトルが『想像力の問題』において詳説している意識の中で不在である対象を現前させるプロセスのことである。
- 3 ここでのアナログン(analogon)とは、J = P・サルトルにおける類同的代理物のことであり、想像の対象を意識に提示する記憶の断片や感覚などの媒介を指す。